

現場マネジメントシステムの検討について（その3）

Examination of site management system (3)

現場マネジメントシステム検討グループ 中川 良文（三井建設(株)）

by YOSHIFUMI NAKAGAWA

現場マネジメントシステムの現状とあるべき姿について、3年近くグループ研究を行ってきた。ここでは、その活動経過を報告し、今回の研究成果については（その4）、（その5）の2論文に譲る。

〔キーワード：現場マネジメントシステム〕

1. はじめに

当グループは、小型コンピュータを導入した現場マネジメントシステムについて、その現状と今後のあるべき姿を浮きぼりにするべく共同研究を進めているが、その活動概要について報告する。

2. 研究活動の概要

現場マネジメントシステムの検討、討議を進めるに当たって、まず対象の土木工事の種類と現場マネジメントの業務の種別の2つの整理軸¹⁾を設定した。

現場マネジメントシステムの現状を把握する目的で収集した事例等の文献資料についても、この2つの整理軸に従って整理し、その後のグループ研究のベースデータとした。

次に、各メンバーが上記の2つの整理軸上の工事種類もしくは業務種別から分担研究のテーマを選択・決定し、文献資料を参考に自社での経験、自分の知見も加え分担研究を進め、その成果について順次、グループ討議を行った。

この分担研究の発表・討議が一巡して、現場マネジメントシステムに対する各メンバーの考え方の相互理解もできた時点で、グループメンバーの現場マネジメントシステムに対する概念の統一を図るべく討議を重ね、先述の2つの整理軸のうちの現場マネジメントの各業務種別について、その内容、相互関連を検討し、図-1に示す「現場マネジメントの概念図」²⁾を作成した。

その後、この概念図を資材管理、労務安全管理、機械設備管理、原価管理、出来高管理、工程管理、品質管理の7ブロックに分割し、グループメンバーがそれぞれのチームに分れて、現場パソコンに

よるシステム化の問題について詳細な検討を加え、その結果にもとづいてまたグループ討議を行うという方法で、7つのテーマの研究報告をとりまとめた。

今回はこのうちの資材管理³⁾について報告した。今回は残りの6テーマにつき別途、2つの論文にまとめ、本講演集で報告している。

3. おわりに

今回までの7つのテーマの報告は、我々が設定した現場マネジメントシステムの2つの整理軸のうち、現場マネジメントの業務種別の軸による分類である。

今後、もう1つの整理軸である工事種類に着目して、「どのような工事において、どのようにコンピュータを使うと利用効果をあげえるか。」という観点から、検討を進める予定である。

当グループの構成メンバーを以下に示す。

(◎:リーダー ○:サブリーダー)

井手豊(日本海洋工業)	中村 司(清水建設)
大内章嘉(大成建設)	◎西野久二郎(鴻池組)
黒沢敏雄(日揮情報)	橋詰文伯(大都工業)
酒入 修(三井建設)	原 宏司(戸田建設)
坂口修司(竹中土木)	松下清一(戸田建設)
酢崎義行(パナ工業)	真鍋幸一(若築建設)
田中裕作(東洋建設)	○山田敬三(パナ工業)
中川良文(三井建設)	渡辺陽二郎(若築建設)

〔参考文献〕

- 1) 第3回 当研究発表・討論会講演集 P.75
- 2) 第4回 当研究発表・討論会講演集 P.167~168
- 3) 第4回 当研究発表・討論会講演集 P.169~174

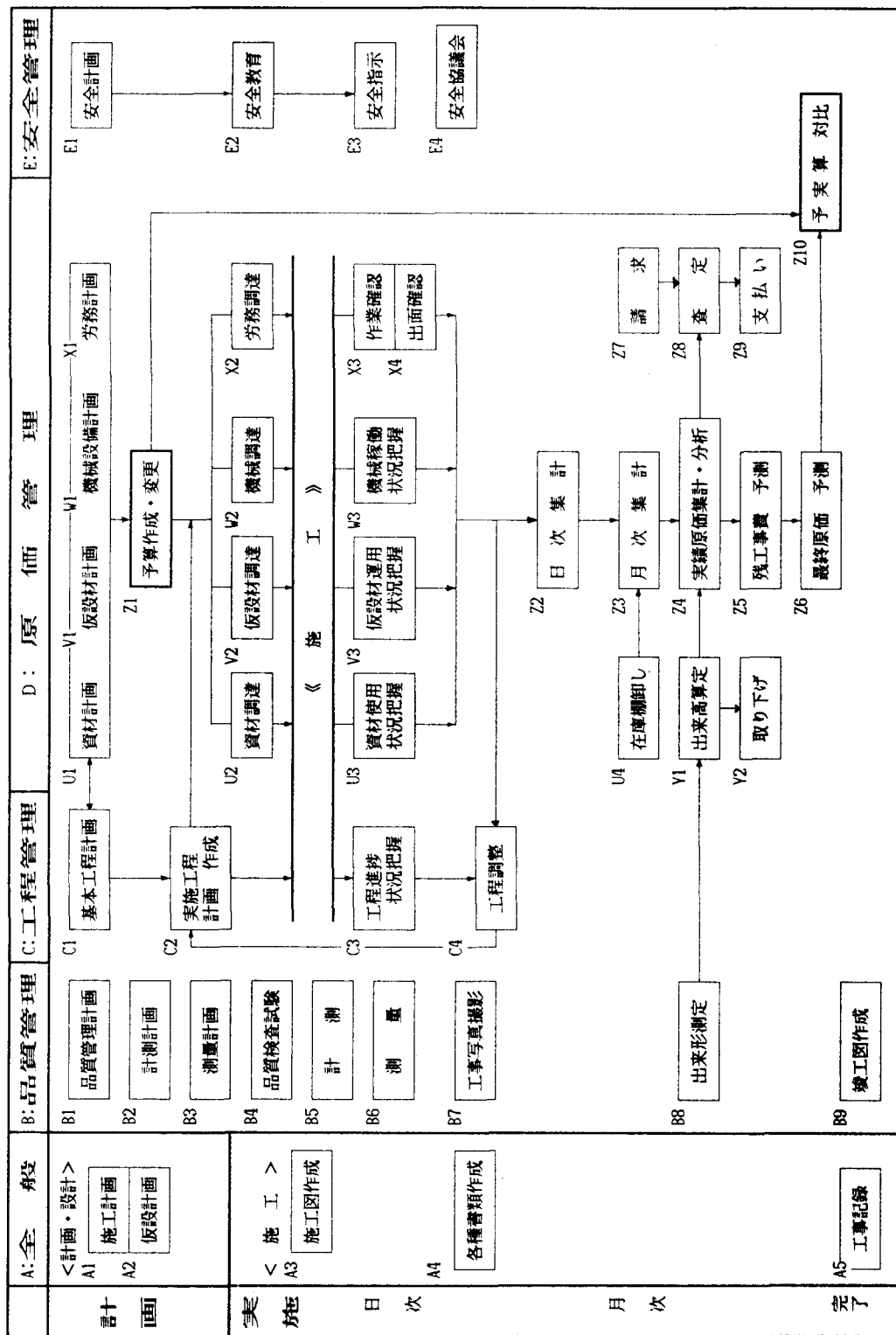


図-1 現場マネジメントの概念図(案) 1987/9 現場マネジメント検討グループ(土木学会)